

各 位

2022年7月19日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

「ころんで死ぬ」「キャンプの炊事中に死ぬ」「助けようとして死ぬ」——山や川、海で死なないために死亡事例から学ぶ最低限の安全の話『これで死ぬ アウトドアに行く前に知っておきたい危険の事例集』刊行

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、『これで死ぬ アウトドアに行く前に知っておきたい危険の事例集』（著：羽根田 治）を発売しました。



ころんで死ぬ、ダニに噛まれて死ぬ、助けようとして死ぬ、キャンプの炊事中に死ぬ、風に飛ばされて死ぬ—アウトドアには「まさか、こんなことで……」と思うような、死の危険がたくさんあります。本書では、アウトドアで実際に起こった死亡事例を紹介し、どうしたらそのような目にあわないか、身を守るための安全知識もしっかり解説しました。死の危険は、知っていれば避けられる可能性が高くなる。アウトドアで自分や大切な人が危険な目にあわないために、最低限の安全の知識が書かれている本です。

雷に打たれて死ぬ



8 月上旬のある日の午後、大学の登山サークルの4人パーティが、南アルプスの北岳(1)間ノ岳(標高2795m)に登り、最後尾を歩いていた2代目の男子大学生の姿が見えなくなりました。そのため彼らは近くにある山荘に逃げ込みましたが、翌朝、山荘で発見されたのは、倒れている男子大学生の遺体のみでした。その後、しばらくして別の登山者が登山道で倒れている学生を発見し、消防に通報。連絡を受けた山荘から、夏山診療所で搬送していた医師が現場に駆けつけ、学生に掛けた点滴が流れた痕跡も見られ(スポンが焦げて壊れたように)、「のちに雷が頭部を直撃したことに よる落雷死であることが特定されました」。

死なないためには

天気予報で大気の状態や雷雨の予報、雷注意報などをチェックし、リスクが高そうなら計画を練り直す。とくに雷が多発する夏山シーズン中は「早急撤退」を実践し、午後早いうちに行動を終える計画を立てる。行動中は気象情報サイトの雷レーダーを見たり、雷の様子を観察したりしてリスクを早めに察知しよう。

イノシシに襲われて死ぬ



神 戸の六甲山(2)では、イノシシの餌付け行為が行なわれていた1960年代から人身被害が報告されはじめ、2010年代前半には登山者が手を咬まれたり、サツクを奪われたりする事故が立て続けに起きました。これらの事故は、餌付けされたイノシシが、ザックに食料が入っていることを学習したことによるものとみられています。2010年代前半以降は、餌付け禁止の強化や積極的な捕殺により、事故は減少していますが、登山者が襲われる事象は今も散見されます。なお、群馬県の桐生市では、夜間の住宅の庭で、餌から逃げ出したイノシシが4代目の夫婦を襲い、夫が足を噛まれるなどして死亡し、妻も軽傷を負うという死傷事故も起きています。

死なないためには

地元の出発情報をチェックしたり、クマ鈴やラジオなどで音を出しながら行動するなどして、なるべく遭遇しないようにする。遭遇したら慌てて逃げ出さず、ゆっくりあつさりしながら距離をとる。また、道の上や段差の上、木の上など、イノシシの位置よりも少しでも高い場所があれば、そこに上がる。

鉄砲水で死ぬ



夏 合宿で北海道の日高山系(3)八山した大学ワンダフル川支流の安六ノ沢川(4)にたどり着いてテントを張り、適切な場所を選ばず余程がなかつたため、河原に警戒しましたが、増水への警戒は怠りませんでした。しかし、夜8時半ごろ、沢の水音が急に大きくなったかと思う、突然テントが流され、4人とも水中に投げ出されてしまいました。ひとりは何となく岸までたどり着き、翌日、沢を下りながら仲間を助けては河原に引き上げましたが、3人とも命は助かりませんでした。日高山系では、事故当日までにまとまった降雨があり、沢が短時間で増水して鉄砲水が発生したと見られています。

死なないためには

山岳地でまとまった雨が降れば、川や沢は恐ろしい速さで増水することがある。このケースでただひとり生還した学生も、「(鉄砲水の襲来は)あまりに急で、対処しきれなかった」と振り返っている。川辺でのキャンプは、高台にテントを張るのが安全。増水時に逃げ場がなくなる中洲への露営も厳禁。

もっと知っておきたい安全知識

もっと知っておきたい安全知識
PART 2

クマに襲われたら

ある程度、離れた距離でクマと遭遇したときは、ゆっくりあとずさりしてその場を離れる。大声を上げたり、慌てて背中を見せて逃げ出したりしてはならない。至近距離で遭遇し、クマが突進してきた場合は、クマ撃退スプレーを使って対抗する。メートルはとまよって逃げたときに、目と鼻、口を一つ一気に入らしてスプレーを噴射せよ。スプレーがなければ、地面にうつ伏せになり、両手を首の後ろで組む。防犯姿勢をとって攻撃をやり過すしかない。

毒ヘビに咬まれたら

傷口をきれいな水で洗い流し、傷口を覆う。毒液を体外にばらばら出す。口で毒液を吸い出すのはNG。咬まれた箇所は腫れにくく、冷やして血流が滞りすぎないようにする。アイシングは行わないこと。可能な場合は、咬まれたヘビの写真を写す。咬傷後、なるべく早く医療機関で診断、治療を受ける。かつては、毒の治りが早くなるのでおつはならないといわれていたが、今日ではおつでも医療機関で駆け込んだほうがよいとされる。手足の咬傷ならば、患部を洗って早く、手拭いなどの雑巾の布で傷口と心臓の間を軽く縛っておくと、ただし10分が1回1分ほどは布をゆるめて血流を再開させること。

クマから身を守るための防犯姿勢

ハチに刺されたら

ハチ毒は水に溶けやすい。刺された傷口を強くつまんで毒液を絞り出し、水で洗い流す。ボイスシールドやバネを使うと、効率的に毒液を吸い出せる。その後、抗生剤を塗る。刺された部位に消毒をたっぷり塗っておく。濡れタオルなどで患部を冷やして痛みが軽減する。嘔吐や呼吸困難、全身の腫脹など、アオウグサキシー・ショックの症状が現れたら、一刻も早く病院で治療を受ける必要がある。症状を進行を一時抑制するアドレナリン自己注射キット、エペネン、を携帯しているなら、それを活用する。ハチ毒に対するアレルギーの有無は医療機関で調べる。アレルギーのある人にはエペネンを処方してもらえ。

著者は書籍『ドキュメント遭難』シリーズなど、山岳遭難や登山技術に関する記事や書籍を多数執筆しているライターの一羽根田治さん。実際に起きた事故を取り上げ、自然の中にはどんな危険が存在しているのか、どうすれば事故を防げるのか、基本的なことからわかりやすく解説しています。

■目次

1章 山で死ぬ

転倒して死ぬ／すべって落ちる／落石で死ぬ／土砂崩れで死ぬ／雪渓が崩れて死ぬ／雷に打たれて死ぬ／火山ガスで死ぬ／風に飛ばされて死ぬ／熱中症で死ぬ／夏なのに寒さで死ぬ／沢の増水で死ぬ／疲れて死ぬ／道に迷って死ぬ／発病して死ぬ／雪に埋まって窒息する／木に激突して死ぬ／雪崩で死ぬ／クレバスに落ちて死ぬ／アイゼンを引っ掛けて死ぬ／一酸化炭素中毒で死ぬ／火傷で死にかける

もっと知っておきたい安全知識 PART1

2章 動物にあつて死ぬ

クマに襲われて死ぬ／イノシシに襲われて死ぬ／毒ヘビに咬まれて死ぬ／ダニに咬まれて死ぬ／ハチに刺されて死ぬ／サメに襲われて死ぬ／オニダルマオコゼに刺されて死ぬ／ダツに刺されて死ぬ／オニヒトデに刺されて死ぬ／ブユの大群に襲われて死にそうになる／カタツムリやナメクジに触って死ぬ

もっと知っておきたい安全知識 PART2

3章 毒で死ぬ

有毒植物を食べて死ぬ／毒キノコを食べて死ぬ／フグを食べて死にそうになる／アオブダイを食べて死ぬ／カニを食べて死にそうになる

もっと知っておきたい安全知識 PART3

4章 川や海で死ぬ

鉄砲水で死ぬ／助けに行こうとして死ぬ／ため池に落ちて死ぬ／飲酒して泳いで死ぬ／高波にさらわれて死ぬ／離岸流で死ぬ／戻り流れで死ぬ／シュノーケリング中に死ぬ／ボートから落ちて死ぬ／ボートに追突されて死ぬ／初心者

が SUP で死ぬ

もっと知っておきたい安全知識 PART4

コラム

転滑落事故が起きやすい場所は？／変わりつつある人間とクマの関係性／中毒事例の多い主な有毒植物／中毒事例の多い主なキノコ

■著者情報

著者 羽根田 治 (はねだ・おさむ)

1961 年、さいたま市出身、那須塩原市在住。フリーライター。

山岳遭難や登山技術に関する記事を、山岳雑誌や書籍などで発表する一方、沖縄、自然、人物などをテーマに執筆を続けている。

主な著書にドキュメント遭難シリーズ、『ロープワーク・ハンドブック』『野外毒本』『パインカジ 小さな鳩間島の豊かな暮らし』『トムラウシ山遭難はなぜ起きたのか』(共著)『人を襲うクマ 遭遇事例とその生態』『十重大事故から読み解く 山岳遭難の傷痕』などがある。

近著に『山はおそろしい 必ず生きて帰る! 事故から学ぶ山岳遭難』(幻冬舎新書)、『山のリスクとどう向き合うか 山岳遭難の「今」と対処の仕方』(平凡社新書)など。

2013 年より長野県の山岳遭難防止アドバイザーを務め、講演活動も行なっている。日本山岳会会員。

イラスト 秋山 貴世 (あきやま・たかよ)

岡山県出身。武蔵野美術大学、セントラルセントマーチンズ大学院卒業。南ロンドン在住。

日本、イギリス、フランスの雑誌や出版物のイラストを中心に活躍。

コミックやジンの制作、ワークショップも不定期で開催。

【商品詳細】

書名：これで死ぬ アウトドアに行く前に知っておきたい危険の事例集

著者：羽根田治

定価：1430 円(本体 1300 円+税 10%)

発売日：2023 年 7 月 19 日

仕様：四六変形判・本文 144 ページ

<https://www.yamakei.co.jp/products/2823500480.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930 年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。

さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：手塚

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yama-kei.co.jp

<https://www.yama-kei.co.jp/>